

# Kindle で日本語を読む方法

2009年12月26日版

KAMIKURA MASARU

上倉 賢

<http://kamikura.com/>



<http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/us/>

# 目次

目次	2
Kindle とは	4
初めて成功した電子ブックリーダー	4
電子ペーパーの登場	6
通信機能内蔵	9
日本での状況は	11
Kindle が日本語を表示できないわけ	13
Kindle で日本語を表示する方法	14
画像として表示する	15
PDF ファイルにフォントを埋め込む	16
Kindle 自体に日本語を覚えさせる	17
Kindle が表示できる形式は	18

Kindle 用の画像入り PDF を作成する方法	19
PDF ファイルに日本語フォントを埋め込む方法	21
Kindle に日本語を覚えさせる	22
応用編	24
青空文庫	24
本をスキャンして PDF 化する	27
本をスキャンして PDF 化する方法	29
スキャンに必要な道具	29
本の解体方法	31
スキャン時の注意点	32
本の解体に踏襲してしまう方へ	33
スキャン後の Kindle 用補正	35
Kindle にファイルを送る方法	36
Kindle 用に向いてない書籍	37

# Kindle とは

## 初めて成功した電子ブックリーダー

Amazon の Kindle は、2007 年にアメリカ市場向けに登場した電子ブックリーダーです。

2 世代目の Kindle (Kindle 2) が 2009 年 2 月に発売され、画面サイズの大きな Kindle DX も 2009 年 6 月に発売されました。

さらに、2009 年 10 月にはアメリカ以外の国向けにも販売が開始されました。

アメリカの Amazon.com は日本のそれと同じように、書籍だけではなく、音楽 CD、DVD、エレクトロニクス機器、おもちゃなど様々な商品を販売しています。

その様々なジャンルの中で、2009 年末にもっとも売れた商品がこの Kindle です。

今までも、表示デバイスとしての電子ブックリーダーは、日本を含め世界中で販売されていました。

どの製品も販売数が伸びず、ほとんどの企業が撤退する中、Kindle は初めて成功した電子ブックリーダーとなりました。

今まで、デバイスとしての電子ブックリーダーが成功しなかった原因の一つに、コンテンツ提供の問題がありました。

出版社など、書籍の権利を持つ企業などが電子ブック向けにコンテンツの供給に難色を示し、電子ブックリーダーで読める書籍その物が少ないという問題がありました。

読める物自体が少ないので、デバイス自体も魅力ではありませんでした。

Amazon は Kindle 発表時に 9 万タイトルの書籍を用意しました。その書籍も古い物ばかりではなく、発表当時のベストセラーのほとんどが含まれるほど、新しい書籍も含まれていました。

9 万タイトルというのは、年間の発行数が 10 万を超えるようなアメリカでは十分ではない物の、世界最大の書店とも言える Amazon のだからか、コンテンツその物の問題は解消できました。

現在では 30 万点を超える書籍に、新聞や雑誌なども購入、定期購読出来るまでになっています。

また、それを読むためのデバイス技術も未発達でした。

Kindle が登場する前の電子ブックリーダーは、パソコンで動作するソフトや、専用端末を使う物などいくつかありました。

パソコンで読むソフトは、画面で読む場合にはいいのですが、パソコンの前になければならず、紙の本のような手軽さがありません。

比較的手軽な専用端末も、表示デバイスに液晶などを使うなど、読みやすさや駆動時間の点などで、十分とは言えませんでした。

このように、電子ブックリーダーはコンテンツ自体も問題でしたが、デバイス自体も未熟で、紙の書籍という数百年続いた完成されたコンテンツには勝てませんでした。

## 電子ペーパーの登場

最近では、日本の携帯電話向けにコンテンツが提供されユーザーも増えているようで、市場環境も変わりつつありますが、本格的に読書する場合、液晶よりも適していると考えられているのが、電子ペーパーです。

一般的な書籍は、白い紙に、黒いインクで文字を印

刷しています。これを読むためには、太陽光や部屋の照明などが必要になります。

暗いところでは読めませんが、紙とインクを使った通常の印刷物は、文字を読むもっとも適した物であると言えるでしょう。

一方、液晶など一般的な電子機器に使われているデバイスは、そのデバイス自体が発光します。

皆さんも感じているとは思いますが、パソコンの画面などで文字を読むのは疲れます。

印刷された物とは違い、文字サイズなどを自由に変更できるという利点がありますが、表示自体の問題に加え、ノートパソコンですら持ち運ぶには若干重いので、紙の印刷物のように気軽に読むことは出来ません。

そんな中で登場したのが電子ペーパーです。

電子ペーパーは液晶などと同じように、数十年前からある物ですが、実用化されたのは液晶などよりだいぶ遅れてのことです。

方式はいくつかありますが、現在 Kindle で採用され主流になっているのはマイクロカプセルによる電気泳動方式です。

これは小さなカプセルの中に白と黒の粒子が入っており、電解によりこの粒子を移動させ画面上に文字などを表示します。

この電子ペーパーの利点は、書き換えた後の保持に電力を使用しないという点です。液晶など多くの表示デバイスは何らかの表示中、常に電力が必要となりますが、電子ペーパーは一度表示させたらその物の保持に電力を使用しません。書籍などを読む際、ページをめくり、そこページを読み終わるまで画面を書き換える必要がないので、電子ブックリーダーには最適の方式と言えるでしょう。

しかし、電子ペーパーも表示が遅い、カラーに対応した製品がほとんどないなど、欠点がいくつかあります。

Kindle も画面表示には 1 秒以下ですが若干の時間がかかります。

使ってみると、文字を読む上では支障のない範囲ですが、もっと速くなったほうがいいのには違いありません。

いまのところ欠点もいくつかありますが、開発中のデバイスを見る限り、表示速度も速くなりますし、カラーにも対応します。



なにより、電子ペーパーは、紙に印刷された文字を読むのと同じような間隔で読めるという最大の利点があります。

この電子ペーパーをディスプレイに採用したのが Amazon の Kindle です。

Kindle 以前にも電子ペーパーを採用した製品はありましたが、コンテンツの面なども含め、使い勝手に優れた製品が Kindle の成功の元となっています。

## 通信機能内蔵

Kindle は日本のハードカバー(単行本)程度のサイズで、厚みは鉛筆程度という薄さなので、軽いですし持ち運びも気軽に出来ます。

さらに Kindle のおもしろいところは、無線通信機能を搭載しているという点です。

パソコンなどで一般的になった Wi-Fi のような無線 LAN などではなく、携帯電話のデータ通信です。

この携帯電話のデータ通信は、携帯電話会社と契約する必要がなく、電波が届くところなら何の設定もなく使用できます。

通信料は Amazon が負担していますが、Kindle が

携帯電話の電波の届くところにさえあれば、Kindle 本体だけでいつでも Amazon の Kindle Store から本を購入できるというおもしろいシステムです。

パソコンと接続してデータ転送したり、通信料金などを気にしながら本を購入するということは一切なく、本屋に行ったり、注文した物が届くのを家で待つ必要はありません。

Amazon はこれを Whispernet と名付けていますが、Kindle 本体だけでいつでも本を購入できるという画期的な機能を備えています。

Kindle Store で購入すれば、60 秒以内に Kindle に書籍が表示されます。

持っている本が読み終わって手持ちぶさたになることはありませんし、読んでいる本と同じ作者の本、引用されている別の本なども簡単に購入できます。

これは読書好きには欠かせない機能でしょう。

2009 年に入り、Kindle はこの専用デバイスだけではなく、iPhone などのスマートフォンやパソコンでも購入したコンテンツが読めるようになりました。

ここでも Whispernet は活用されており、iPhone

で読んだ位置と Kindle を同期し、いつでも簡単にどんなデバイスでも続きが読めるという機能があります。

これは物理的な紙の本では不可能な機能です。

## 日本での状況は

現在、2種類の Kindle が用意されていますが、日本で購入できるのは Global Wireless 版と言われる、小型サイズの Kindle です。これは国際版とか International 版などとも言われていますが、サイズは先にも書いたようにハードカバーの A5 サイズ程度です。

日本では購入できませんが、画面サイズの大きい Kindle DX もあります。こちらは価格も高くなりますが、画面も大きく A4 サイズ程度を前提とした書類を読んでも読みやすいかと思われます。実際に大学の教科書として使われる例などもあるようです。

Global Wireless 版の Kindle は\$259 です。

筆者が 2009 年 11 月に購入した時点で、送料は \$20.98 で、Priority International Courier しか選べませんでした。これに Import Frees Deposit の \$14 が加わり、購入時点での総額は \$293.98 になります。

2009年12月の為替は\$1が90円程度なので、送料などすべて混みで、おおよそ26,000円程度です。

日本で購入できたとしても、問題は日本語のコンテンツです。

洋書を読む方には全く問題なく使えますが、日本語の書籍はAmazonのKindle Storeで販売されていません。

日本の電子書籍市場を見ると、携帯電話向けなどに販売しているところもあり、Kindleのような電子ブックリーダー向けにも販売することを期待したいところですが、それがいつになるかはわかりません。

そもそも、Kindle自体は日本語を表示することが出来ません。

表示自体が出来ないので、日本語の書籍が発売されるときには、Kindle内部のソフトウェアが改良されたり、日本向けの新型が出る必要があります。

# Kindle が日本語を表示できないわけ

Kindle は Amazon.com で購入しても、日本語は表示できません。そもそも、日本語の書籍は Kindle Store で販売されていないのですから表示できる意味はないのですが、日本語の電子書籍ファイルを作ってもそのまま表示することが出来ません。

それではなぜ日本語が表示できないのでしょうか？

コンピュータで文字を表示するには、文書データそのものと文字の形状のデータが必要となります。

文書データとは「肉まん食べたい」などの文章のデータです。これを細かく観ると、文字形状の「肉」などの文字形状のデータもあります。

言ってみれば、「にく」という言葉を知っていても、肉という漢字を知らなければ「肉まん食べたい」と書くことが出来ません。

Kindle は「肉まん食べたい」という文書データが

来たとしても、「肉」という漢字はともかく、ひらがなも知らないので表示することが出来ません。

文字形状データのことをフォントなどと言いますが、Kindle にはこの日本語に対応したフォントが入っていないのです。

このため、日本語を表示しろと Kindle に命令しても、そもそも文字を知らないので表示することが出来ません。

多くの日本人にアラビア語でなにか書けと言っても、アラビア語をの文字形状すら知らないので書けないのと同じような状況です。

日本人でも、当然ながらアラビア語を学習すれば書けるようになります。

日本語を表示するには、これと同じように Kindle に日本語を教えてあげればいいわけです。

## Kindle で日本語を表示する方法

Kindle で日本語を表示するにはいくつかの方法がありますが、ここでは3つの方法について簡単に解説しましょう。

# 画像として表示する

日本語を表示する方法はいくつかありますが、一番手っ取り早いのが日本語を画像に組み込んでしまうという方法です。

Kindle は日本語フォントが入っていませんが、電子ブックなどに含まれる挿絵などを表示するために、画像は表示できます。

その画像に日本語を書き込んでしまえばいいわけです。

多くの日本人がアラビア語を書くときに、文字として書こうとしても読めませんし意味もわかりません。文字の形状や文法、言葉の意味などを覚えて書くよりも、これはイラストだと思って、絵として複写すると手っ取り早く書くことができます。

これと同じ事を Kindle にやらせればいいわけです。

Kindle 自体はその画像データを見て、画像として表示しますが、人間が見る場合、文字として読めるので、画像に表示できる物ならどんな言語でも対応できます。

# PDF ファイルにフォントを埋め込む

これがもっとも無難な方法です。

PDF ファイルというのはインターネット上などで、文書を配布する際によく使われているファイル形式です。

読むためには PDF リーダーが必要で、パソコンでは Acrobat Reader を使用することが多いと思います。

大型サイズの Kindle DX では発売当初から対応していましたが、小型サイズの Kindle も 2009 年 11 月に PDF 表示に対応しました。

PDF にはフォントを組み込むという機能があります。PDF として配布しても、特殊なフォントを読む方が持っているとは限らないので、そのフォントデータを PDF ファイルに組み込んで、どんな環境でも読めるようにするための機能です。

この機能は当然ながら Kindle でも使えます。

PDF ファイルを出力する際、フォントを埋め込めばいいだけです。フォントが埋め込まれた PDF ファイルを Kindle で表示する際に、その埋め込まれた



フォントを使って日本語を表示します。

問題は、ファイルごとにフォントが埋め込まれるので、データが大きくなるという点です。

大きくなると言っても、600KB のオリジナルデータが、1.4MB 程度などになるだけなので、たいしたことはありませんが。

## Kindle 自体に日本語を覚えさせる

これは裏技的な使用方法なのでおすすめしませんが、Kindle を改造して、日本語フォントを埋め込んでしまうという方法もあります。

この方法を使えば、Kindle 自体が日本語の文字を覚えているので、PDF にフォントを埋め込むということをすることなく日本語が表示できます。

もちろん、データ容量も小さくなります。

この方法は改造なので、万が一壊れたりした場合は自己責任になります。つまり、壊れたら修理などのサービスが受けられない可能性があるということです。

それでも、この方法を試したいという方以外は、改造(ハック)する方法はおすすめしません。

## Kindle が表示できる形式は

コンピュータは、ファイル形式がいくつかあります。OS やソフトなどによって変わってきますが、Kindle はその中で、いくつかのファイル形式に対応できます。

Kindle Store で販売している電子ブックは AZW という形式で配布されています。

電子書籍フォーマットとしては Mobipocket (.mobi、.prc など)もサポートしています。

Mobipocket のファイルがあるところで有名なのは、Mobipocket 自体と、英語版青空文庫とも言える Project Gutenberg があります。

<http://www.gutenberg.org/>

<http://www.mobipocket.com/>

これ以外には通常のテキストファイル(.txt)もサポートします。

また、先に書いたように PDF ファイルも読めます。

## Kindle 用の画像入り PDF を作成する方法

まずは、日本語を画像として表示する方法です。

基礎となる文書を作成し、それぞれのページを画像として保存します。その画像を 1 つの PDF ファイルにまとめ直せばいいのですが、これを手動でやるのは非常に面倒です。

Mac OS X だとプリントメニューに Save PDF to folder as JPEG などがありますし、Automator などに PDF ページをイメージとしてレンダリングするという物もあります。

これらの方法で画像として出力した物を PDF にするのもいいのですが、Kindle 用に加工した物と加工していない物の視認性の差は非常に大きくなっています。

Kindle の解像度は 600x800 ですが、これ以上の解像度の画像は縮小して表示します。また、ページ数表示のために、この解像度全部に文書データが表示

できるわけではありません。

画像を縮小するときに、文字が細くなりますが、このあたりの処理を Kindle は苦手としているようです。

将来の Kindle では改良されるのかもしれませんが、今のところ手動で加工すると視認性が向上します。

加工方法はいくつかありますが、レベル補正、ガンマ補正をし、解像度を Kindle に合わせるという方法です。

これを PhotoShop のマクロなどでやれば自動化も出来ますが、大量の書籍を変換するのには向いていません。

そこで、専用ソフトの出番です。

Chain LP

<http://no722.cocolog-nifty.com/blog/>

これは Kindle 用ではありませんが、様々な携帯機器などに表示できるファイルを作成できる、非常に利便性の高いソフトです。Windows で使用できます。

このソフトを使えば、スキャナなどで読み取ったりしたファイルを画像として Kindle 用に一発で加工して保存することが出来ます。

## PDF ファイルに日本語フォントを埋め込む方法

Mac OS X でプリントする際、PDF を選べば設定にもよりますがフォントが埋め込まれます。

Adobe Acrobat を利用する場合はフォントを埋め込む設定もあるので、こちらも確認してください。

Windows などでは PDF ファイルを作るには Adobe Acrobat を利用する方法があります。

Acrobat は高価なソフトですが、ドキュメントスキャナの付録としてついてくるので、これで手に入れるのもお得です。

これ以外の方法としては、Acrobat 以外ソフトを使う方法があります。

PrimoPDF

<http://www.primopdf.com/>

フリーソフトで人気なのがこの PrimoPDF です。有料版もありますが、無料版でも問題なく PDF ファイルが出力できます。

## Kindle に日本語を覚えさせる

これは Kindle 内部のソフトウェアを強制的に書き換える方法です。言ってみれば、人間の脳を勝手に書き換えるような方法で、何かあったときには Amazon もソフト提供者も保証できません。

あくまでも自己責任で行う方法です。

やり方は、Kindle を解析した方が作成したファイルを Kindle に入れ、それを使って Kindle のソフトウェアを書き換えるだけなので比較的簡単です。

この方法を使えば、日本語フォント自体が Kindle に記録されるので日本語が何の不自由もなく表示できます。

電子ブックのタイトルに日本語が使えるのはもちろん、PDF にフォントが埋め込まれていなくても、画像ファイルとして保存しなくても日本語が表示でき

るというのはかなり利便性が高まります。

<http://www.ytsuboi.org/wp/>

ユーザーが勝手に出来るのですから、Amazon もがんばって視認性の高いフォントを入れるなど対応を期待したいところです。

この日本語を覚えさせるように、Kindle 自体の改造(ハック)も一部で話題になっています。

Amazon が想定していない使い方で、これも保証外になりますが、Kindle 自体が魅力的なデバイスなので、そのようなハックがいくつも登場するのでしょう。

# 応用編

## 青空文庫

青空文庫は、著作権の切れた日本語の書籍がたくさん集まっていることで人気の Web サイトです。

<http://www.aozora.gr.jp/>

この内容が Kindle 表示できれば、たくさんの日本語書籍を手に入れられます。

日本語の文章は日本語のフォントを組み込んだ PDF ファイルを作ればいいのですが、どうやって作るのがよいでしょうか？

方法はいくつかあります。

通常の PDF を作るときと同じように印刷する際に PDF 出力を選ぶという方法です。

青空文庫の場合、ルビのある物をどう処理するかという問題もあり、どうやって出力するかが問題です。

また、フォント自体や文字サイズも問題になるでしょう。



ブラウザから直接 PDF ファイルを作る場合、  
Firefox なら

## XHTML Ruby Support

<https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/1935>

でルビをルビっぽく表示。

## Stylish

<https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/2108>

でフォントサイズなどを設定。

これだけで Kindle に合わせた、自分好みの PDF ファイルを作成できます。

この方法を活用すれば、青空文庫以外の Web サイトの文書も Kindle で表示可能です。

これ以外では、Word などのワープロソフトで Kindle 用にするのもいいでしょう。

青空文庫テキスト傍点ルビ変換マクロ

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/writing/se272800.html>

ルビふり君 forWord

<http://www.vector.co.jp/soft/win95/writing/se349392.html>

などはルビの設定に便利です。

おすすめなのは、Kindle 用に設定できるソフトです。

ChainLP

<http://no722.cocolog-nifty.com/blog/>

Windows では ChainLP が便利です。

このソフトは、後述する画像として出力するのを目的としたソフトですが、フォントや文字間隔などを自由に設定可能です。

自分好みの PDF ファイルを作りたい場合はおすすめです。

青空 Kindle(仮)

<http://a2k.aill.org/>

青空文庫だけが目的ならもっとも手軽なのが、このサービスです。

青空文庫の zip ファイルの URL を入力するだけで、青空文庫用の PDF ファイルが作成されます。

ブックマークレットというブックマーク(お気に入り)に行く感覚で、ボタン一発で変換できる仕組み用意されており、誰でも簡単に Kindle 用に変換できます。

## 本をスキャンして PDF 化する

青空文庫は著作権が切れた本が中心です。過去の名作を読むにはいいのですが、最近の本は基本的に読めません。

Kindle が売れた理由に最近の売れ筋の本が買えるということがありますが、日本ではいつ対応するのか全くわかりません。

Kindle で多くの日本語書籍が読めるようになる日も来るのですが、待っていても Kindle では読めない物があります。それが本棚にある書籍です。

将来、Kindle 版が出てから買い直すのもいいかもしれませんが、自分のライブラリを Kindle 用に買い直すというのは非現実的です。

また、たぶん二度と読まないけど、捨てるには忍びないという本を持っている方も多いのではないのでしょうか？

そのような本や、紙でしか出版されていないけど、Kindle で読みたいという本はスキャンして PDF 化する事をおすすめします。

本をデジタル化すれば、Kindle やコンピュータ上でいつでも読めるようになります。

PDF 化する際、OCR で文字認識すれば検索も出来るようになりますし、今までは本棚に埋もれていた本が活用出来るようになるかもしれません。

この場合、各ページを画像として保存し、その画像を表示することになりますが、Kindle 用に変換した方が視認性は高まります。

# 本をスキャンして PDF 化する方法

本をスキャンするには解体する必要があります。もちろん、1 ページごと複写するように、解体しないで行うことも可能ですが、手間と時間を考えると解体した方が無難でしょう。

解体とは、製本された本をカッターナイフなどでばらばらにすることです。

そのため、解体した後の本は、ページそれぞれがばらばらになっているので、紙のままでは読みづらくなります。

本棚にそのままとっておきたい場合、スキャン用に別途本を入手するのがいいかもしれません。

## スキャンに必要な道具

最低限必要なのがカッターナイフです。

どんな物でもいいのですが、紙だから小さいのでは

なく、しっかりと切れる本格的な物がおすすです。

しっかりと切れる物と言っても、500円から1,000円程度で販売されている物で十分です。

オルファでは万能L型、NTカッターならL-500シリーズなどとなります。どれも500円程度で購入できます。

カッターの刃はよく切れるように切れ味が悪くなったかなと思ったらどんどん変えてください。

よく切れるカッターで、すっぱり切った方が後でスキャンする場合にトラブルありません。

これに加えてあると便利なのが、切り始めで使う定規です。よく切れるカッターでプラスチックの定規を使うと定規自体が切れてしまいますので、金属製の定規を使ってください。

もちろん、スキャナも必要です。ページ送り機能のあるドキュメントスキャナがいいでしょう。

おすすはユーザーも多い富士通(PFU)のScanSnapです。

低価格モデルよりも、高い方の S1500 シリーズがおすすめです。

<http://scansnap.fujitsu.com/jp/>

高いと言っても 4 万円前後です。これが高いかどうかはスキャンする量にもよって変わりますが、はっきり言って安いぐらいです。

最近の製品は特に完成度も高く安心して購入できます。

カッターナイフとスキャナを用意したら、とりあえずスキャンしてみましょう。

## 本の解体方法

スキャンに必須なのが、カッターナイフなどで本を解体する作業です。

流れとしては、しおりなどが挟まっていないか確認、カッターナイフなどで解体する、スキャナで読み取る、読み取った物を確認する、とこれだけです。

この中で難しいのが、解体する部分です。

単純に、閉じている部分を、文字を切らないようにカットし、各ページがばらばらになっているか確認しなければなりません。

本は製本する際に、のりを使いますが、こののりが少しはみ出ている事があります。はみ出たのりの部分を確認し、のりがついてはがれていないページをはがさなければ、スキヤントラブルの元となります。

この場合、ページがとんでしまいますし、ほとんどのスキヤナでは2枚重ねて読み取る場合に、片側だけとじている紙ではエラーとなります。

それさえ出来れば、スキヤナに収まる範囲内で切り取った紙をセットし、スキャンします。

## スキャン時の注意点

スキャンする際、傾き補正や、書類の向きの補正はなくてもいいでしょう。読み取り後の確認の手間を減らすためにも、白紙の自動除去もやらないでもいいでしょう。

多くのドキュメントスキヤナは書類を読み取る時に、書類の傾きを補正する機能がありますが、漫画や挿



絵の場合うまく補正できない場合があるどころか、誤認識してしまいます。

また、文字などを見て書類の向きを補正するので、挿絵や漫画などでは縦横方向の認識も誤ることがあります。

さらに、白紙の自動除去を使うと、読み取った枚数と、実際のページ数の確認が面倒になります。白紙の自動除去をしていると、ページ数と読み取った枚数が合わなくなり、読み取りに失敗したのか、白紙を自動除去したのかの確認に手間取ります。

## 本の解体に踏襲してしまう方へ

スキャンするには当然ながら、本を切り刻む必要があります。カッターナイフで切断するのですが、これに抵抗のある方もいるかもしれません。

読みもしないのに紙の本をため込み、本棚に普通に入らなくなると、隙間に詰め込んだり、2段にして入れたり、それでも入らなくなると、段ボールに入れたりしてとにかく保存しておきたくなる人は特にそうかもしれません。

もったいなくてカットできない、本に悪いという気

持ちはよくわかります。

でも、考えても見てください、図書館などのように本棚できれいに分類分けしていれば別ですが、段ボールなどにしまったら最後、二度と読まれないのではないのでしょうか？

そうやって死蔵した本を大量に保存するよりも、デジタル化して、いつでも本の内容にアクセスできた方が便利ははずです。

音楽 CD も大量に保有すると、その大量に保有した中から自分の聞きたい CD を探したりするのは大変でしたが、iTunes など管理することで、いつでも大量の音楽ライブラリから音楽が聴けるようになりました。

シャッフル再生も MD などのように多くても数十曲の中から再生するよりも、数百曲、数千曲の中から選曲した方がバラエティに富みます。それと同じように、本もデジタル化することで、音楽のそれと同じように、文字の活用が出来るようになるはずです。

Windows 7 の検索機能は強化されましたし、Mac OS X の検索機能 Spotlight も協力です。

日本ではいまだに原稿用紙に手書きしている著作者も多く、そのような方が製本された本を解体しているところを見ると卒倒するのかもしれない。

しかし、物理的にその本を本棚に飾るなどして、保存しておきたい場合は別にして、デジタル化して活用した方がその本にとっても本願ではないでしょうか。

この練習には古本が最適です。

自分が最終的にスキャンしたい本と同じ体裁の物を内容は無視して古本屋で安く買い、解体とスキャンの練習をしましょう。数冊で慣れて本番本の解体とスキャンがスムーズに出来るようになるでしょう。

慣れれば、買ってきて読みもせずに解体、スキャン、そのまま紙ゴミ回収という流れが当たり前になるかもしれません。

もちろん、解体した本を保存しておいても良いわけです。

## スキャン後の Kindle 用補正

スキャンでは HDD 容量などが許す限り、高画質で保存したいところです。

その高画質で保存した物は前述したように Kindle 用に加工しましょう。

ChainLP

<http://no722.cocolog-nifty.com/blog/>

何度も紹介しているこのソフトでは、Kindle 用の設定もあるので、これで自分好みのファイルが作れるようにしましょう。

## Kindle にファイルを送る方法

USB ケーブルでパソコンと Kindle を接続すると、Kindle が USB マスストレージクラスとして認識されます。

認識された documents フォルダに PDF ファイルをコピーするだけです。

当然ながら Kindle は日本語を表示できないので、Kindle 用のファイル名は半角英数字しか使えません。

## Kindle 用に向いてない書籍

あくまでも個人的な感覚ですが、スキャンしてPDF化しても Kindle では厳しい書籍も存在しています。

文庫や単行本(ハードカバー)の小説は基本的に問題ありません。漫画も見開きを何とかすれば問題ないでしょう。

難しいのが A4 の書類や、B5 サイズ程度の技術書類です。

これらの書類は比較的大きめの紙に文字がたくさん書かれており、Kindle の実質 A6 サイズ程度の表示面積では文字が小さすぎます。

全体を横回転にすることも出来ますが、現在の Kindle でPDFを横回転するのはあまり現実的ではありません。

# 改訂履歴

2009年12月26日 初版公開